



● 野外生活でたくましく成長 七塚原自然探検キャンプ



野草を採取し、野草料理コンテストを実施

子どもたちの自立と協調性を養おうと、高原の家七塚が8月1日～5日、七塚原自然探検キャンプを開催しました。

毎年人気のこのキャンプは、今年も募集開始早々に定員に達し、県内各地から小学生51人が参加しました。子どもたちは4泊5日の野外生活を送りながら、自然観察や登山、星の観察など自然のすばらしさを体験しました。

主催した西村清巳さんは子どもたちの満足そうな表情を見て、「子どもたちがお客さんにならないよう心がけた。たくさんの体験を通して、本物の楽しさや充足感が味わえたのではないかと話していました。

● 都会っ子に里山の良さをPR ちゅーピーこどもバスが総領へ

子どもたちに里山の自然を楽しんでもらおうと、なかつくに公園歓交実行委員会や総領町観光協会などの各団体が7月22日・23日の両日、ちゅーピーこどもバスを受け入れました。

ちゅーピーこどもバスは、小学生が自然とふれあう日帰りツアー。会場となった総領町の「なかつくに公園」には、広島市内の小学生約380人が訪れ、四葉のクローバー探しや、ストーンペインティングの石拾い、鮎やヤマメのつかみ捕りを楽しみました。昼食には地元の食材を使った料理や鮎の塩焼きなどを、おいしそうに食べていました。

ちゅーピーこどもバスの関係者は「地元の各団体には企画から協力してもらい、都会では味わえない体験を子どもたちに提供できました」と感謝していました。

● 恒久平和への誓いを新たに 山内原爆犠牲者慰霊式典

原爆投下直後に274人の被爆者を収容し、地域をあげて看護した山内地区で8月6日、山内原爆犠牲者慰霊式典が行われ、遺族や地域住民をはじめ、山内小学校の児童など約120人が参列しました。

会場の原爆慰霊碑には多くの折鶴や灯ろうが飾られ、山内地区社会福祉協議会の菟原元樹会長が「核廃絶に努力することが原爆犠牲者の御霊に報いることになる」と誓いと追悼の言葉を述べました。参列者は一人一人焼香し、恒久平和への祈りをささげました。

午後からは、山内原爆被害者の会が「平和学習講演会」を開催し、原爆被害者問題や旧陸軍大久野島毒ガス製造工場の被害者問題を通して、被爆体験の継承の意義などについて学習しました。



広島市長のメッセージを代読する実安裕美さん



コンサート



魚のつかみ捕りを楽しむ子どもたち

● すごい!感動!興奮!7位入賞 庄原から北京五輪の金藤さんへ大声援

8月13日～15日の3日間、庄原市出身の金藤理絵選手が北京五輪の競泳女子200mに出場し、庄原市から大きな声援が送られました。

13日の一次予選では、市役所一階のロビーに市職員や市民56人が大型テレビの前で観戦。金藤選手がテレビに映ると「よし!落ちついとる。大丈夫だ。がんばれ」などと声援が飛びました。レース中盤からトップ争いを繰り広げると、「行け!行け!」という掛け声にあわせて、大きな手拍子が沸き、この組トップでゴールすると、「やったー」とガッツポーズ。自己ベストを大幅に更新する2分24秒62のタイムに、「すごい」「感動した」「興奮した」と歓喜に包まれました。

14日の準決勝・15日の決勝では、手作りの日の丸と庄原市の市章を振り大声援。決勝で7位入賞が決まると、「ようがんばった」「感動をありがとう」と活躍をねぎらいました。

市役所のロビーで3日間声援を送った田辺靖雄さんは「金藤さんの活躍に鳥肌が立った。郷土の星として、次のロンドン五輪もぜひ狙ってほしい」と興奮した様子で話していました。



市役所ロビーで声援する市職員や市民



● 速さと正確な放水技能を競う 庄原支部小型ポンプ操法大会

第11回広島県消防協会庄原支部小型ポンプ操法競技大会が8月24日、比和スポーツ広場でありました。この大会は、消防団員の技術の向上と意識の高揚を図るため、4年に1回行われています。



ホースを持って全力疾走

暑さの中、各地域の代表14チームは、日ごろの訓練の成果を発揮。「操作はじめ!」の掛け声から、ホースを伸ばして放水「火点標的」を倒すまでのタイムや4人の団員の動きの機敏さ、操作の要領などを競いました。団員は、指揮者の指示に従い、きびきびとした動作でホース3本を連結させ、火点に向かって放水しました。

優勝した庄原方面隊山内西分団は、来年広島市で開かれる県大会へ出場します。

結果は次の通り。(1)庄原方面隊 山内西分団 (2)東城方面隊 第6分団 (3)庄原方面隊 敷信分団

● 高原コースを駆け抜ける ひろしまクロスカントリー大会

標高700mの高原を走る「第9回ひろしまクロスカントリー大会」が8月23日、道後山高原クロカンパークで行われました。中国電力など実業団のトップアスリートをはじめ、1歳10ヶ月の幼児から84歳の高齢者まで約1,800人が挑戦しました。

参加者は、1kmから8kmの5コースに分かれ、多目的広場を次々にスタート。さわやかに駆け抜けました。親子で手をつなぎ懸命に走るほほえましい光景に、「がんばれよ」と盛んに声援が送られていました。



トップアスリートが集う華やかな大会

● 東城の魅力を作品に込める 箱庭展・天満書競書大会

東城地域の夏の伝統行事「箱庭展・天満書競書大会」が、8月6日から東城市街地で開催されました。

箱庭は畳一畳分の木枠の中に、テーマに従って川砂や石、木材、発砲スチロール、紙粘土などを使って、パノラマ風に景観を作り上げるもので、各地区の子どもたちが4点を出品し、商店街の空き店舗に展示しました。

最優秀賞には、上之町地区が制作した作品が選ばれ、雪景色の「雄橋」を背景に記念撮影をしたり、馬車に乗ったりする観光客を再現しました。作品を制作した4年生の半田楓美乃さんは「みんなで実際に雄橋を見に行き作りました。雄橋の曲線や馬車・人形の細かいところを作るのが難しかったです。最優秀賞に選ばれてうれしい」と話していました。

また、同時に子どもたちの書の上達を願って行われた天満書競書大会には、町内の7小中学校の児童生徒と保育園児が、東城の自然をテーマに438点を出品。「神龍湖」「白雲洞」などの力作が、箱庭の展示会場や東城支所に展示されました。



箱庭展で最優秀賞に輝いた作品

● 介護予防ラジオ体操を学ぶ 「楽人楽園講座」で健康づくり

高野町の上高公民館が7月31日、高齢者の生きがいづくりを目的とした「楽人楽園講座」で、広島県介護予防研修相談センターの芳谷伸二所長を講師に介護予防講演会「介護予防ラジオ体操をはじめよう!!」を行いました。

この体操は、一般的なラジオ体操と同じ音楽ですが、動きをゆっくりと改良したものです。

参加した26人は「ラジオ体操のイメージが変わった。ゆっくりすることで、いつも使わないところが伸ばせて気持ちよかった」と話していました。また、高野支所の峠恵子保健師は「誰でも取り組める体操で、今後保健師でも普及を図りたい」と意欲を燃やしていました。

● きれいな川をみんなで守ろう 美古登小学校水辺教室



魚や水生昆虫を採取する子どもたち

7月18日、身近な川に興味を持ち環境について考えようと、美古登小学校4年生から6年生の児童25人が参加して水辺教室が開催されました。

自分たちの住む町を流れる西城川は、本当はどんな状態なのかを調べるため、西城地区公衆衛生推進協議会と広島県環境保健協会の環境アドバイザーの指導で、実際に学校近くを流れる西城川に入り、網やバケツを使って魚や水生昆虫を採取しました。

採取した生き物は、学校に持ち帰りテキストを参考に名前を確かめながら分類し、水質を4段階に評価する記録用紙に記録して水質を判定しました。

今回の水辺教室では、「カワゲラ」や「ヒラタカゲロウ」のほか、広島県のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されているナマズの仲間「アカザ」も確認され、「きれいな水」と判定されました。

参加した児童はグループごとに、環境を守るために自分たちができることを考え、「ゴミを出さないようにする」「川や道に落ちているゴミを拾う」と発表しました。

西城地区公衆衛生推進協議会の榎本聡副会長は、「魚や水生昆虫の住める川があるということは、人間も安心して住める地域ということなので、この環境を今後もみんなで守っていききたい」と話していました。



ゆっくりと体を伸ばす参加者

● 懐かしいふるさとで交流会 東京西城会結成45周年



滝口市長が「たびたび帰って東京生活の元気づくりをしてください」とあいさつ

東京周辺に暮らす西城町出身者の会「東京西城会」が、結成45周年を迎え、西城の夏祭り「どえりゃあ祭」に合わせて帰省し、ふるさとの人々と交流しました。

8月12日、東京西城会の会員124人のうち23人が、大型バスで12時間かけて西城に帰省。ウィル西城で行われた「ふるさと交流会」では、西城で暮らす家族や友人、知人に囲まれて、ふるさとの思い出にひたりました。

西城町油木出身で東京西城会の立河忠司会長は、「ふるさとの皆さんに温かく迎えてもらってとてもうれしい。西城川の流れを見て大変懐かしく思う。東京に出て52年になるが、これからもふるさとを大切にしていきたい」と話していました。

13日には「どえりゃあ祭」のパレードにも参加して、ふるさとの夏を満喫しました。

● 「海の日」に河川美化活動 口和で「川の日」を制定

「庄原市に海はないけど川がある。その川を私たち住民で大切にしていこう」と口和町の各自治振興区が、7月第3月曜日の「海の日」を「川の日」と銘うって、今年から河川美化活動を始めました。

地域住民は川のごみを拾ってきれいにするとともに、川土手の草や川に繁殖するアシなどを刈りました。

「川の日」を企画した口和町自治振興区連絡協議会の川崎綱人会長は、「これからも川をはじめ、地域の自然を大事にすることで、各地域の発展につなげていきたい」と抱負を語っていました。



川にたまった流木を取り除く

● 楽しく歩いてわがまち発見 永田ウォークラリー

口和町の永田ふれあい振興会（岡崎哲朗会長）が7月12日、自分たちの地域を知ろうと「永田ウォークラリー」を開催しました。

口南郵便局の隣にある「いきいき広場」に集まった参加者16人は、各グループに分かれ、約2kmのコースを歩きました。寺の入口や夜灯などに設置されたチェックポイントには、その地域にちなんだクイズが用意され、参加者は苦戦しながらも楽しく歩きました。

企画に携わった副会長の橋岡伸明さんは、「これからもイベントなどを通して、地域を知ること、住民のみんなを知ること、を続けていきたいと思います」と参加者に呼びかけました。



チェックポイントを探る参加者

● 自然とふれあい 体力づくり 吾妻山グリーンラリー

8月8日、吾妻山グリーンラリーが開催され、66人が参加しました。

今年で第20回を迎えた吾妻山グリーンラリーは、木々や草花の名前を調べながらハイキングすることによって吾妻山の自然を理解し、ふれあいを深めてもらうと毎年8月8日（葉っぱの日）に行われています。

参加者は比和文化会館で木々や草花の学習をした後、吾妻山へ移動し、休暇村吾妻山ロッジを起点として「ゆったり」と「がんばり」の2つのコースに分かれて出発しました。「がんばりコース」では、吾妻山山頂を巡る約5kmのコース内に15のチェックポイントが設けられ、草花の検索表などで一つ一つ種類を調べながら、ゴールを目指しました。

雨のため途中で終了しましたが、参加者は「いろんな植物が分かって楽しかった。来年もチャレンジしてみたい」と話していました。



木の名前を調べる参加者